　　　　　 がくちか400

（留学編）

留学先のブラジルで現地の人と生活をともにすることに力を注いだ。

私は⑴ブラジルにおける日本語教育の調査⑵ブラジル文化、人々を深く理解することの２つの目的で留学に行くことを決意した。その目標を達成するために、実際に現地の方とコミュニケーションを取ることが最善だと考えた。そこで日本語の授業に参加し、学生から話を聞いたりしていたが、紋切り型の回答や表面的なことしかわからなかった。そのため、彼らの本心や内在的な論理を探るには彼らと仲良くなって人間関係を構築する必要があると考えた。彼らと仲良くなれなかった原因として、語学力以上に共通の話題がないことだった。そこで私は日本のアニメの知識を身につけ、日本語でしか知り得ないような裏話やエピソードを提供したりして親睦を図った。また頻繁に彼らを家に招待し日本料理を振る舞ったり、得意な野球を教えたり「自分だから提供できる価値」を考え実行した。その一方で彼らの価値観や暗黙のルールに合わせ、現地に溶け込むという努力もした。またブラジル人十一人が済むシェアハウスに住ませてもらい、２４時間彼らと生活をともにした。また課外活動では日本語勉強会に参加、野球クラブに参加、外でも地域のS D Gsを考える期に参加して地域の人とも交流を図った。大学では日本文化と料理を提供する会にも参加した。初めのうちは馴染めなかったが、長い時間をかけて関係を構築していくことで、彼らの本心や何気ない発言などから思考様式を学んだ。そして彼らの実家に泊まらしてもらい、ブラジル家族の日常をのぞいたり、みんなで旅行したりした。

初めは日本語の授業に参加し、学生から話を聞いていたが、表面的な回答に終始することが多くあった。その原因として、深い話ができるほどの人間関係を構築できていなかったことがあると感じた。またそもそも会話をする絶対数が少なかった。そこで①出会いの絶対数を増やす②仲良くなるために自分なりの価値を提供することに取り組んだ。具体的にはブラジル人学生１０人で住んでいるシェアハウスに一緒に住ませてもらったり、大学の野球サークルに参加した。また大学生以外との交流を増やすべく、地域の「S D Gsを考える会」にも参加した。

私は⑴ブラジルにおける日本語教育の調査⑵ブラジル文化、人々を深く理解することの２つの目的で留学に行くことを決意した。その目的を達成するために、実際に現地の方とコミュニケーションを取ることが最善だと考えた。初めは日本語の授業に参加し、学生から話を聞いていたが、表面的な会話に終始することが多くあった。その原因として、深い話ができるほどの人間関係を構築できていないと感じた。またそもそも会話をする絶対数が少なかった。そこで①出会いの絶対数を増やす②仲良くなるために自分なりの価値を提供することに取り組んだ。具体的にはブラジル人学生たちのシェアハウスに一緒に住んだり、大学の野球サークルに参加した。また地域の「S D Gsを考える会」にも参加した。日本語でしか知り得ないようなアニメの知識を常に仕入れ話のネタにする、彼らを家に招待し日本料理を振る舞う、得意な野球を教えるなど「自分だから提供できる価値」を考え実行した。その一方で彼らの価値観や暗黙のルールに合わせ、現地に溶け込むという努力もした。

その結果、彼らと仲良くなり深い話ができただけでなく、彼らの実家や親戚の家に招待されたり、彼ら経由で新たな出会いが増えるなど好循環が生まれた。